

昭和十八年五月二十五日 印刷 納本  
昭和十八年六月一日 (毎月一回一日發行) 禁轉載

# 道路の改良

第二十五卷  
第六號

社団法人  
道路改良會

# 鋪裝報國



東京市淺草區花川戶一ノ一松屋ビル七階

## 日本鋪道株式會社

社長 淺利三朗

電話淺草(84)八三四一・八二四二・八二四三  
東京・大阪・福岡・札幌・京城・臺北・新京・橫濱・名古屋・京都

# 飛行場舗装 道路舗装

加熱式アスファルト  
アスファルト乳劑  
セメントコンクリート

## アスファルト乳劑製造



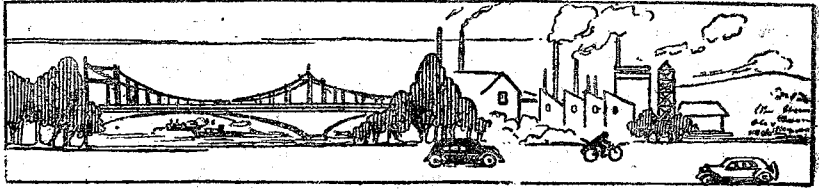
## 東京瀝材工業株式會社

本社 東京市日本橋區吳服橋一丁目三番地  
(三和ビル)

電話(日本橋) 二六六六番  
五五一一番

東京工場 東京市江戸川區長島町五七〇五番地  
電話(葛西) 〇〇四〇番

鶴見工場 横濱市鶴見區市場町七七四番地



道路の改良 第二十五卷 第六號 目次 昭和十八年六月一日發行

卷頭言

法令解説

改正土地工作物管理使用收用令の解説(二)……………内務省國土局 岸本喜代治(三)

研究

西藏の歴史産業交通の概況……………H T 生(三)

説苑

道路改良會首腦部と道路問題の推移——副會長内田嘉吉氏——…清水 生(四)

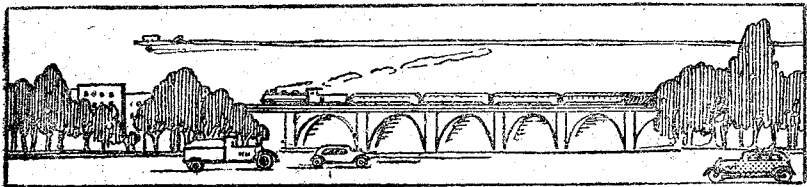
創立滿四年の華北交通……………日 野 生(五)

馬來の道路と自動車……………清野謙六郎(五)

土木常備者表彰規程制定に就て……………北海道廳道路課 有岡富次(五)

氷川瑣言……………比路志生(五)

時局日誌(六十七)……………Y H 生(六)



内務省特報

内務省告示(道路改築、貝塚市及舞鶴市、春日井市、豊川市設置)◎全國經濟部長事務打合會に於ける安藤内務大臣の初訓示◎全國内政部長事務打合會……………( ㄉ )

法令

最近内務省に於ける路政關係行政處分例……………Y A 生( ㄱ )

自動車交通事業法改正

通牒 鐵道省營自動車路線道路改修費並ニ同維持費負擔率取極ニ關スル件

行政官廳職權委讓ニ伴フ事務處理方ニ關スル件

上下水道用資材ノ節約ニ關スル件

雜報

道路功績者の表彰◎自動車國道建設調査◎戸倉峠開鑿工事起工式祝辭◎吳隧道開鑿井吳港修築工事起工式祝辭◎安藤内務大臣の略歴◎唐澤内務次官の略歴◎滿鐵會社の新機構と局長の氏名◎翼賛會の機構改正◎本會評議員松本健次郎氏◎本會評議員湯澤三千男氏◎本會々長水野鍊太郎氏◎東大名譽教授法學博士立作太郎氏◎内務省土木試驗所談話會◎近刊圖書雜誌……………( ㄱ )

編輯室の内外……………( 三 )

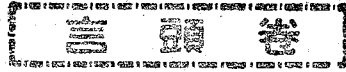


昭和十八年

道路の改良

六月一日

第二十五卷  
第六號



昭和十八年度の國家計畫の根幹を爲す物資動員計畫並に交通動員計畫に關し政府に於て決定せらるる所があつた。それを要約すると第一戦争經濟の機動性に着目して情勢即應の臨機措置を講ずること、第二國家總力を鐵鋼、石炭、輕金屬、船舶、航空機等超重點物資の計畫的増産に集約すること、第三戦時國民生活の確保に萬全の調整措置を実施することに在る。此等の計畫は戰爭完遂の爲には交通經濟の轉移、直接戦力に關係なき生産部門の壓縮の如きは已むを得ない事態であつて、戦力増強の一點に國家總力を傾倒する爲に最も有效適切なる計畫を實現せんとするものである。

然しながら此等計畫は一面國民生活の最低限保護に付て特別の注意を拂ふべき旨を明にしておる。之れは言ふまでもなく、國民の生活に脅威を感ずるが如きことなきを明確にしたるもので至極適切なる計畫といはなければならぬが、其の最低限の生活とは如何なる程度のものなるや。生活は衣食住の三種に外ならないが、衣類に付ては切符制の實施に依り略ぼ其の限度が確保されてゐる。住居に付ては何とか方法が立てられ雨ざらしの者もなき状態である。其處で何んといふても國民生活の最低限の確保といへば食糧問題が一般的且重大なる問題である。即ち國民の體位保健問題、人口問題等々決戰下我が戦力増強に關聯する重大なる問題である。

『食糧問題に對し關係當局は價格制度、配給制度、運送設備の改善等銳意心を用ゐられて居るのであるが、從來よりの例に依れば我が國に於ては一つの法令一つの機構を造り上げることにて因て、最早や夫れ等は萬全に統制され或は配給されて行くものと思ひ込まれ勝ちで、其の結果の如何に就いては餘りにも無責任に過ぎたのである。現在に於ては配給機構の不備、物資の偏在に依つて、あつてはならぬ開行爲があり、更らに夫が國民生活をより困苦に陥れて居るのである。而して如何に法令、機構を整備するとも、要は夫れの運営如何に係る。故に運営の衝に當る機構の末端に至るまでの人々が戦時下國民生活を確保し、延いては我が戦力の増強に奉仕するの崇高なる使命を認識し、其の責務を遂行するに在る云々』と公館岩倉具榮氏は論ぜられておるが寔にうがち得たる意見と謂はなければならぬ。

物資の不足、公道價格の價格變更が新聞紙で傳へらるると聞取引は愈々織んになる傾向が多分に認めらる。開相場に依て取引せらるる點から觀れば世間に傳へらるる如く物資が缺乏して居るとは思はれないのである。開取引と物資の偏在とは現情に於ての不祥と不快と不信とを喚びざるを得ない實生活の現状である。食糧の不足程みじめなものはないので勢ひ開取引に依りても尙ほ其の不足を補はんとするは人情の然らしむる所である。食糧の不足勝ちなるは戦時の常態であつて之を如何とも爲す能はざる所であらうが、開取引と物資の偏在とを抑制し尙且業者への配給を減少して家庭に重點を置き配給を調整するに於ては或は開取引を制し、物資の偏在を防ぐに至らしむるを得んか、更らに一段の細心なる注意と工夫と、責任とを自覺し關係當局は勿論一般國民も反省熟慮することが緊要のこととは思ふ如何。(洗民)